AgileWorks R3

ログイン認証ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 概要 4
1.1. ログイン認証 4
2. ログイン 5
2.1. ログイン URL 5
AgileWorks 標準のログイン画面 URL 5
2.2. ログイン認証設定のアクセス権限 5
3. 書類の表示 6
3.1. ドキュメントビューア URL 6
新規でドキュメントビューアを開くための URL 6
保存された書類を開くための URL 6
3.2. 書類を直接開いた状態でログアウトする 6
3.3. 書類作成時のフィールド値指定 6
利用するにあたって 6
利用可能なフィールド 7
指定するフィールド値 7
書類を表示する際の動作 7

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 概要

1.1. ログイン認証

AgileWorks では、ログイン認証に関する設定を管理サイトから行ないます。
設定画面は、管理サイト⇒【サイト管理】⇒【サイト共通設定】ワークベンチ⇒【認証・セキュリティ】⇒【ログイン認証】です。

初期状態では、管理サイト／ユーザーサイトそれぞれの AgileWorks 標準ログイン画面からのログインが許可されています。
外部システム（SSO サーバー等）と連携して AgileWorks にシングルサインオンさせたい場合は、ログイン認証設定の追加を行って、ログイン方式に関する設定を行う必要があります。

AgileWorks が提供するログイン認証方式には、大きく以下の種類があります。

ログイン認証の種類	説明
既定のログイン	AgileWorks 標準ログイン画面からログインする認証方式
外部連携	SSO サーバーや外部システムで認証された状態を元に、AgileWorks に対してログインする認証方式 ※「外部連携オプション」が必要です。
SAML 連携	SAML v2.0 の認証プロトコルに対応した認証方式 ※「SAML 連携オプション」が必要です。
Google Apps 連携	Google Apps の OpenID Connect 認証に対応した方式。 ※「Google Apps 連携オプション」が必要です。
Google Apps OpenID 2.0 連携	Google Apps の OpenID 2.0 認証に対応した方式。 現在はサポート停止されているため、非推奨です。 ※「Google Apps 連携オプション」が必要です。
サイボウズ　オープン統合認証 ver.2 連携	サイボウズのオープン統合認証 ver.2 に対応した方式。 ※「サイボウズ　ガルーン連携オプション」が必要です。
desknet's NEO 連携	desknet’s NEO に対応した認証方式。 ※「desknet’s NEO 連携オプション」が必要です。
SharePoint 連携	SharePoint に対応した認証方式。 ※「SharePoint 連携オプション」が必要です。

SSO に関しては「AwOp01-SSO 設定ガイド」を参照ください。

2. ログイン

2.1. ログイン URL

AgileWorks へのログイン URL について説明します。

AgileWorks標準のログイン画面URL

▼ ユーザーサイト

```
http://{Server}/AgileWorks/Broker/Picus
```

▼ 管理サイト

```
http://{Server}/AgileWorks/Broker/EMMA
```

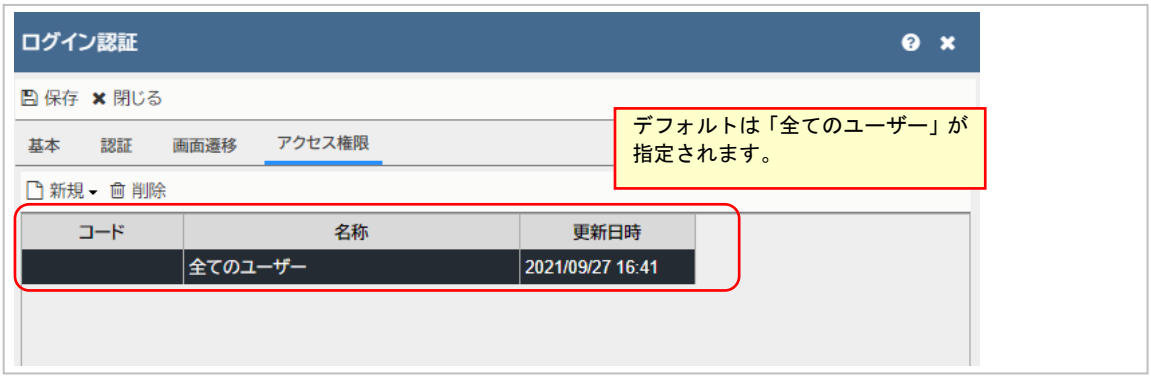
※ 上記 URL は、インストーラーからインストールした時の標準的な URL です。
　インストール時にコンテキスト名を AgileWorks 以外に指定した場合は、以下の{ContextName}を指定したコンテキスト名に置き換えてください。

```
http://{Server}/{ContextName}/Broker/EMMA
```

2.2. ログイン認証設定のアクセス権限

ログイン認証設定は、設定毎に利用できるユーザーを限定することができます。
設定は、ユーザーや組織、ユニバーサルロール単位で指定可能です。

▼対象のログイン認証設定の【アクセス権限】タブに指定したユーザーのみ利用できます。



3. 書類の表示

3.1. ドキュメントビューア URL

AgileWorks の書類表示ビューアである「ドキュメントビューア」を外部システム等から直接開く場合、以下で説明する URL をリンクします。

新規でドキュメントビューアを開くためのURL

例えばグループウェアやポータルから AgileWorks の書類を新規で開くためのリンクを設置するには、以下形式の URL をリンクします。

```
http://{Server}/AgileWorks/Broker/Document?FormCode={$FormCode}&RuleCode={$RuleCode}
```

・$FormCode : 管理サイトで指定したフォームコード
・$RuleCode : 管理サイトで指定した回付ルールコード

保存された書類を開くためのURL

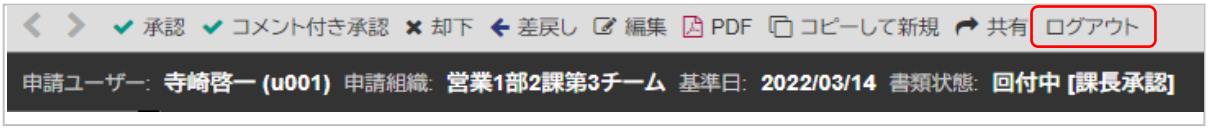
保存された書類を他システムや、通知メール文面等から直接開くには、以下形式の URL をリンクします。

```
http://{Server}/AgileWorks/Broker/Document?DocId={$DocId}
```

・$DocId : AgileWorks の書類 ID
※「書類 ID」は、AgileWorks が自動的に採番した、書類を識別する為の一意の値です。

3.2. 書類を直接開いた状態でログアウトする

ドキュメントビューアから直接書類を開いた場合、ドキュメントビューアに「ログアウト」ボタンが表示されます。
この「ログアウト」ボタンを押下すると、AgileWorks からログアウトし、ログイン認証設定の「画面遷移 > ログアウト時」に従って画面が遷移します。



※ユーザーサイトの仕事や検索画面から開いた場合は表示されません。

3.3. 書類作成時のフィールド値指定

「新規でドキュメントビューアを開くための URL」にて書類を作成する際に、任意のフィールドに指定した値をセットすることができます。
{フィールド ID}={フィールド値} のように指定し、GET と POST の両方に対応しています。

例）GET を利用する場合

```
http://・・・/Document?FormCode=RINGI&RuleCode=RINGI&title=doc_title&item_0=item_name&price_0=100
```

利用するにあたって

本機能は全フォームに対して利用することが可能です。

本機能は外部システムの情報を元に書類を作成するような場合に手入力の手間を削減するための機能です。
利用する際には書類URLを配置しているポータルや外部システム側でフィールドIDとフィールド値を指定する仕組みを構築する必要があります。

利用可能なフィールド

文字フィールドやコンボボックスなど、入力フィールドに対して利用することができます。
表明細のフィールドでも利用可能です。
表明細のフィールドを指定する際には「フィールド ID_行番号」のように指定してください。行番号は「0」から始まります。

ただし、「不可視」「編集禁止」「無効」の何れかの属性が有効なフィールドでは利用できません。

指定するフィールド値

フィールド値は URL エンコードされている必要があります。

コンボボックスやチェックボックスなどの書類上に表示される値（表示値）と DB に保存される値（DB 登録値）が異なる場合のあるフィールドでは、「DB 登録値」を指定してください。

書類を表示する際の動作

本機能によって値をセットした場合、書類の表示時に入力チェックなどが動作します。
そのため、X-WebForm にて設定した最大入力文字数を超える値をセットするようなことはできません。

値のセットはサーバー側で行われるため、ブラウザ上で動作する OnLoad イベントなどでセットした値を利用することが可能です。

注意事項
フィールド値の指定に GET を利用する場合はフィールド数とフィールド値の文字数が多くならないように注意してください。
上記要素が多いと URL が長くなり、ブラウザによってはアクセスできない場合があります。